

NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR
PARAPSYCHOLOGY

MARCH

No. 23

故ライル博士の葬儀行わゆる

前号でお知らせしましたように、2月20日(金)午前9時30分から11時半頃まで、日本から本学会を代表して入谷宗司氏が3月22日の追悼会に参列されました。場所はDuke大学のチャペルで本学会の花輪を靈廟に捧げ博士の冥福を祈りいたしました。列席者は各団体の関係者と会員を含めて約300名、博士の業績と人柄をたたえ、しきが合ひなりました。博士の追悼号を次号にて掲載いたします。

お 知 ら せ

X, 42回例研究会

下記要領で4月研究会を開催致します。

日時：1980年4月20日(日)、0:00～16:00

場所：猪俣社 東京都千代田区麹町1-1

03-263-0851(日電市ヶ谷駅下車小先がり横八)

協議：年度計画について(統)

紹介：Electrical responses evoked from the human brain: Scientific American 1979, 12月 領介者 松田 伸

輸送：Hand book of Parapsychology
担当 肖井一

学 会 ニュース

X, 41回例研究会、1980年3月16日(日)

10:00～16:00 常設会館本館にて開催

出席者 アンダーソン、金次元基、大谷宗司、呂氏一小人数のため懇親会の年度計画は4月に延期、呂氏のハントンの輸送を行わせた。

1979 Parapsychological Association Convention の報告

(Parapsychology ReviewのPalmerの記事から)

X, 42回PA例次大会は、1979年8月15日から18日までの4日間、カルフォルニア Moraga の St. Mary's College で開かれました。プログラムは研究論文／リサーチ・ブリーフ 22、シンポジウム、ラウンドテーブル 3、また新設の Poster Session で論文 20 をシンポジウム／コロキウム形式で発表されました。ランダマイジエレーターを用いた PK 研究

○エーヴィング大学の Ariel Levi はカリフイルニア大学の Robert Morris 博士の研究の追試に成功しました。被験者が進行中の視覚フィードバックを受けると、goal-oriented 計画画の方より process-oriented 計画画よりも正の PK 結果が高かった。しかし、トバッフが減少するとこのパラメータは逆転しました。

○ウトレビト大学の Richard Broughton, Brian Millar, Martin Johnson は PK 痘瘍下の治療法として Aversion therapy (嫌悪治療) にて患者ショックを与えるが成功したのです。

○Maimonides Medical Center の Lawrence Tremmel, Charles Honorton は PK 研究の 1977-78 年にかけて強制體適的グラフティスコープを用い、75-トバッフを強化、high-arm task, low-arm task にて proper 方向への反応率と differential effect (分化効果) を得た。
マミード病院にて PK

○フロリダ Winter Park Rollins カレッジの Hoyt Edge は土地の多能者と消化酵素トリゴシンの活動に適当に有効な効果を及ぼすことが出来ると報告しています。Smith の追試として行われたものであるが、Smith の被験者と異なり、Edge の被験者はトリゴシンを活性化させようと試みたとき、かえってそれを強化させた。

○カルフォルニア大学の Elizabeth Rauscher & Beverly Rubik は - - - a Human Dimensions Institute の Lucis Gatto と共に、有能な治療師 Olga Worrell のパーカティアの成長、これは自動性に影響を与えたと言えます。

とを報告した。

- Karlis Osis & Donna McCormick は、ストレイン・アーリング及ばずPK媒介効果について靈能者 Alex Tanous のESP試験で子供^功に成功し、OBE中の同時的ESPテストに成功した。特にOBE中にESP成功したときにOBEの外在化仮説を支持する記載であろう。

自由反応ESP研究

- Duthoff & Targ は Tart や Humphrey と並んで遠隔視察実験を行ない成功を収めた。今回も陽性自身体では、目標地図の小さな写真を見てから課題があった。また Irvine 大学の Marilyn Schlitz & Stephanie Deacon は被験者に画道鏡のカラーフィルムを用いて実験を行い有意な結果を得た。

ESPと認知過程

- Ernesto Spinelli によれば小学校の GE SP得意な児童が目標を達成するまでの複雑な過程を連続習習作業によって示すよりも、単純な操作に付けてみると、はじめている際の方が有意な正の結果が得られるという。

- Mind Science Foundation の Gary Davis & William Braud の結果から非認可レベルにてESP刺激の記録がつかえる。被験者が一連のESP symbols を遠隔視察すると、GSR の自動的活動が高まる。しかし被験者はターゲット symbols を対象としてスコアとはされない。

シンポジウムと批評論説

今年のシンポジウムは、サイ研究の批判的な概念と議論へのアプローチを強調した。Charles Tart は session 中の被験者の宣傳の内部状態について注意を払うことを強調(並びにパラサイロジーによる発達研究への革新的アプローチを例証するため催眠を用いた)。ノースカロライナ大学の Ralph Lacke は、療法の研究に現象論的アプローチを導入し、治療部の心理状態に対することを強調した。

Barbara Honegger による最終シンポジウムは、現象の概念化の小さくみを取るのと、考え方や概念の実行可能性に対する議論である。Bender はパラサイロジスト現象は「攻

撃性の神経類型の現実化」として解釈出来るところの考え方をそのままで取り扱っている。Honegger は「超常現象は共時性現象を含めて構造的大要と同型である。」したがって同一の神経学的基盤を持つという説を提おした。ところが彼女は偶発的超常現象は脳の左半球言語系に、その右半球視覚部と連絡する手筋であると述べている。